「人への教育」と意識改革で進める前橋市の校務DX

ネットモラル

広教ニューズレター
Vol.45
広教 HIROKYO 2026.7
https://www.hirokyou.co.jp/

前橋市では、二〇二六年度から境界型ネットワークの校務環境を、クラウドベースのゼロトラストネットワークを用いた次世代校務支援システムへ移行し、校務DXを進めています。そこで重視しているのが、システム整備だけでなく、教職員一人一人の理解と行動を支える「人への教育」です。前橋市教育委員会 学校教育課ICT専門員の折田一人先生に、その考え方と実践について伺いました。

校務DXで目指す、三つの未来

前橋市が校務DXを進める理由は、大きく三つあります。

一つ目は、校務の効率化を図り、先生が子供たちと向き合う時間を増やしたいという思いから。二つ目は、学校や職員室だけでなく、教室でも、自宅でも、出張先でも、状況に応じて柔軟に働ける環境にしたいから。三つ目は、今後を見据えたデータ活用により、これまで先生方の勘や経験に頼っていた指導を、一人一人に合った指導に反映したいからです。

こうした新しい校務環境へ移行した背景には、従来の境界型ネットワークが、結果として先生方にとって使いにくい環境になっていたという課題がありました。しかも、その境界型ネットワークは完全に安全というわけではなく、新しいセキュリティリスクにも十分対応しきれなくなってきていました。

そこで前橋市では、クラウドベースのゼロトラストネットワークを用いた次世代校務支援システムへと切り替えました。クラウド上で安全性を確保しながら、必要な情報に柔軟にアクセスしていく仕組みです。

二〇二六年四月から運用を開始していますが、先生方からも、ネットワークの切り替えが不要になったことや、保存領域が大きくなりクラウド上にデータをまとめられるのが便利だという声が出てきています。



前橋市教育委員会
学校教育課ICT専門員
折田 一人 先生
(おりた かずと)

「新しい環境」を安全に活かす、確かな「人への教育」

しかし、ゼロトラストネットワークは、クラウドベースで便利になるからこそ、「人への教育」がいっそう重要になります。

たとえば、クラウド上のどこにデータを置くのか、誰が見られるようにするのかといったことを、一人一人が常に意識して使わなければなりません。なぜそれが重要なのかを理由も含めて理解し、ルールを守っていく必要があります。

そこで前橋市では、先生方に新しい環境を安全に使ってもらうため、研修会や説明会など、様々な学びの機会を設けています。

一方で、集合研修を増やしすぎると、先生方の負担が大きくなり、働き方改革にも適していません。先生方の負担を抑えながら、伝えるべきことはしっかり伝えるための手段の一つとしてeラーニングを活用しています。

学校現場に特化したeラーニング教材を活用する

前橋市では、二〇二五年六月に「事例で学ぶ学校情報セキュリティ」を導入しています。

情報セキュリティの研修教材はたくさんありますが、ほとんどは一般企業向けです。その点、この教材は学校現場で本当に起こりそうな事例が具体的に示されており、先生方が自分ごととしてとらえ、腑に落ちる形で理解できます。著作権への配慮など学校現場特有の課題が幅広く扱われていて、体系的に学べる点も魅力でした。動画を視聴した後にチェックテストがあるので、「見ただけ」で終わらないのも、大きな利点です。

また受講履歴を確認できるので、管理職は先生方一人一人の学習状況を、教育委員会は各学校の学習状況を把握できることも、大きなメリットだと感じています。

ゼロトラストネットワークを導入する前の二〇二五年度は、最低限知っておいてほしい著作権、個人情報など、まずは基礎となる内容について、すべての先生方に受講をお願いしました。実際に新しいシステムへ切り替わった二〇二六年度は、パスワードの管理やクラウド上での情報共有といった、よりステップアップした内容を受講してもらっています。負担にならないように教材はできるだけ絞り、隙間時間で無理なく受講してもらいながら、自主的にさらに学びたい先生には自由に受講してもらう形にしています。早い先生は、どんどん受講を進めています。

先生方の反応からも、手応えを得ています。指導主事の間でも、「やってみたら難しかった」「分かっていたつもりだったが、そういうことだったのかと理解できた」といった声が出ています。管理職の先生方も、「とても大事な内容だから、すべての先生に見てもらう必要がある」と、あらためて情報セキュリティについて基本から学び直す必要性を再確認しています。

教育界全体の大きな転換期と、前橋市におけるシステム刷新という変化に合わせ、これからはクラウドと生成AIを活かし、機械に任せられる校務は機械化することで効率化し、授業改善や子供への支援に力を注いでいく新しい学校教育のあり方を目指して歩みを進めています。

先生や児童生徒、そして保護者までもがクラウドで繋がり「共に安心して子供を育てる環境」を作ることを真のゴールだと考えます。

どんなに高度なシステムを構築しても、最後は使う人次第だからこそ、何よりも重要となるのが「人への教育」です。前橋市では、この確かな土台をもとに、ベテランから若手までどの先生にとっても、質の高い教育を行うことができる学校現場を目指しています。

学校の大切な情報を安心して扱うために。
「正しい知識と実践」で繋ぐ校内セキュリティ研修！

今、学校に求められている情報セキュリティのあり方

生成AIの普及やネット脅威の巧妙化など、学校のデジタル環境は急速に変化しています。
学校にある大切な情報を守るには、リスクを未然に防ぎ、インシデントを起こさないためにも、
組織全体の意識改革が欠かせません。
まずは、先生方の日常に、どんなリスクが潜んでいるのか、チェックしてみましょう。



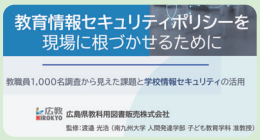
問題にチャレンジ！ 情報セキュリティ意識チェック！

Q. ウイルスに感染する可能性があるものをすべて選んでください。

- ☑ 私物のUSBメモリ
- ☑ 不適切なホームページ
- ☑ 不審なプログラムのインストール
- ☑ 不審なメールの添付ファイル
- ☑ 公式なホームページのファイルをダウンロード

※答えは紙面下側にあります

必見！
お役立ち資料を公開中



『教育情報セキュリティポリシーを現場に根づかせるために』
教職員1,000名への調査から見えた課題と、「学校情報セキュリティ」の活用法をまとめました。よりよい学校運営に繋げるために、ぜひお役立てください！

広教では、2つのセキュリティ研修を提供しています

1 「**事例で学ぶ 学校情報セキュリティ**」を使ったeラーニング研修
先生方が都合の良い時間に個別に受講できるため、集合研修のような日程調整や会場準備の手間は一切かかりません。

2 講師を派遣した「**集合型セキュリティ研修**」
「さらに一歩踏み込んだ研修を行いたい」「専門家を招いて意識改革とインシデント対策を強化したい」というご要望にお応えし、自治体独自のルールや状況に合わせた研修を承ります。





喜びの声 実際に集合研修を実施した自治体からは、「組織としての共通理解が深まった」「日頃のリスクへの危機感をリアルに共有できた」と大変好評をいただいています。

大好評

児童生徒向け 情報活用能力 サポート教材 事例で学ぶ **Netモラル**

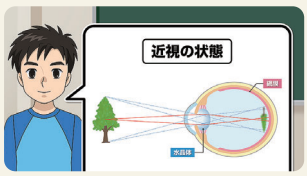
情報技術の学びが、次のステージへ

詳細はこちら▶

次期学習指導要領を見据えた新カテゴリー「**情報技術の仕組み**」が登場。
さらに、近視予防や闇バイトなど、今の子供たちに必要な新事例も加わりました。



S-01 二次元コードの特性
（新カテゴリー事例）



H-08 近視のしくみと予防



B-37 デジタルタトゥー



T-04 疑似体験 闇バイト

A. すべて 解説 ウイルスは、インターネットやネットワークの接続をしなくとも、USBメモリやCD、DVDなどの記憶メディアから感染する場合もあります。必ずウイルス対策ソフトを導入し、記憶メディアはウイルスチェックをしてから使うようにしましょう。

広教ニューズレター は、広教が提供するサービスの最新の活用事例や、情報活用能力の育成に取り組んでいる自治体の先生の声をお届けしています。
Web版もオープンしてより気軽に閲覧いただけるようになりました。

広教ニューズレター 検索

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL：082-291-1088 FAX：082-291-1082
URL：https://www.hirokyou.co.jp/
E-mail：info-hiroshima@hirokyou.co.jp